

## 1. 総理が黙秘権行使(供述拒否権)

黙秘権とは「何人も自己に不利益な供述を強要されない」とか「**被疑者**が取り調べの時に話したくなければ話さなくてよい権利」と憲法や解説書に出ている。

学術会議会員任命拒否問題については、国会で「任命拒否の理由」の質問に対し「総合的・俯瞰的な見地」と訳の分からない回答であった。更に説明を求められた総理は「**お答えは控えさせていただきます**」と同じ答弁を恥じらいもなく繰り返し繰り返す。これって総理の「**被疑者としての黙秘権**」の行使ということ？

国会で総理が黙秘権行使とは…。

本件の答弁を拒否する一方で「学術会議の在り方」の質問となると多弁になる。

「安倍政権の承継」を謳った新内閣はここも承継したようだがっかりだ。

## 2. 自助・共助・公助⇒⇒⇒自責・共責・公助(Go To トラブル)

「Go Toトラベルを見直せという声はでていないし、打ち切る考えはない」

「皆さんの感染に対する意思が緩んでいるように見える」

「Go To トラベルへ行くかどうかは皆さんの判断にゆだねる」

「Go Toトラベルが感染拡大の要因になってはならない」

「Go To トラベル、イートでは行く先で三密禁止を厳重に守ってほしい」

「今後どうなるか神のみぞ知る。」

「飲食は4人以下で。飲食は一口ごとにマスクを外して口に入れる」

上記の発言は政府の非常に責任ある人達の、感染拡大やGOTOキャンペーンに対する最近の発言である(経済との両立は無視できないという前置きはあるが)。

しかしどの発言を見てもとても政府が口癖のように言う「国民に寄り添って」いる発言とは程遠い。それどころか左右見ながらいかに責任から逃れるかに汲々としているかが見え見え。

そもそもコロナ対策の重点は「三密禁止。ソーシャルディスタンス。ステイホーム」の**三本柱**でそれを厳しく対応した効果で第二波コロナは終息の方向に向かったが、これを見極めないうちにGO TOキャンペーンを始めてしまった。これに反応して向寒の季節を迎えてか全国的に一挙に第三波感染者増加となり毎日新記録続出。

**三本柱**の中の一つ「ステイホーム(家に居ろ!)」が「GO TO(表に出ろ)」に転換したので感染者増加現象はだれの目にも明らかだ。然しこの分かり切った現象を認めると、政府提唱のキャンペーンが失敗と言うことになる。それは絶対にやばい。それでは国民や自治体にも責任を…と印象操作を仕掛けているのが冒頭の政府の心無い発言の数々だ。 ホントに聞き苦しいし、見苦しいばかり。

「GO TOキャンペーンでは旅先でマスクをして、飲食店では三密禁止を厳重にやればコロナは防げる」としきりに言っているが、旅先での駅の設備や車内の混雑も危険な感染源だ。またマスク万能のような発言をしばしばしているが大間違いである。有効なマスクは、チャチなアベノマスク(増す苦)や我々日常使用のものとは違って、高機能な「医療用マスク」である。政府は「GO TOキャンペーンでは関係する人が三密禁止とマスクを徹底しないのが感染拡大の原因」と言わんばかりで国民や地方自治体にその責任をすり替えようとする魂胆だ。

以上の流れを見ると、菅内閣が発足し、真っ先に表明した「自助・共助・公助」とは「自責・共責・公助つまり国民みな最後まで責任を持って対処し、政府を助けてほしい」ということだったのか感{首}違いしていたことが分かった。

毎日コロナが原因で二けたの死亡者数出るほどの重大事を新聞の隅の小さな集計表で知るだけでいいのだろうか？ また陰性から健康回復した人たちの中にさまざまな後遺症に悩む人たちが少なく無いとの最近の報道もある。

「1人の人の命は地球より重い」と昔ある政治家がおっしゃってたっけ。

新型コロナウイルスに対し「コロナは国難である」と例によって心にもない綺麗ごと。それなら国難らしく動け！ キャンペーンをこのまま進めて死者や感染者が更に急増した場合、為政者としてどのような責任を取る覚悟があるのだろうか？ 無い。

追記:

過去の太平洋戦争の折、ガダルカナル島で米軍との激しい戦争の結果日本軍が惨敗したことを思いだした。相手米軍を過小評価。陸海不統一、情報不足、戦術・判断ミスが重なり作戦は大失敗。兵力、兵器、食料などの小出し補給やタイミング遅れで3万人の将兵を断続的に送った結果5千人戦死・玉砕、1万5千人病死・餓死、残り1万人が飢餓状態の廃兵同様に撤退(退却)という、悲惨な戦闘であった。。

しかも最高指揮責任の参謀本部ではだれも相応の責任を問われなかったとか・・・。

軍事評論家が「様子を見ながらの小出しは最もやってはいけない作戦」と酷評した戦闘だった。了